

「死んだら、どうなる」

ルカの福音書 16章 19節～32節

はじめに

今回は「死んだら、どうなる」という点を見てみましょう。

子どものころ、「嘘をつくと、地獄でエンマ大王に舌を抜かれる」などと言われ、地獄は恐ろしい所だと、子ども心に思いました。

人間は、必ず死にます。死を恐れます。死の恐れの原因の一つは、「死んだら、どうなる」という不安があるのではないのでしょうか。

では、聖書は、「死んだら、どうなる」と教えているのでしょうか。ルカの福音書に記されたイエス様のお話を学びましょう。

1 アブラハムのふところと、ハデス (22/23)。

イエス様は、ここで、ある金持ちと、貧乏人ラザロの二人が「死んだ後」のことをお話になりました。

(1) アブラハムのふところ。

貧しいラザロは、死ぬと「御使いたちによって、アブラハムのふところに連れて行かれた」とあります。「アブラハムのふところ」とは、パラダイス(ルカ 23:43)と同じと考えられ、信じて死んだ者が行くところです。そこで、ラザロは「慰められて」います(25)。

(2) ハデス

金持ちが死ぬと、「ハデス」で苦しんでいました。「炎の中で苦しくてたまりません」(24)と言っているように、非常な苦しみに会っていました。

(3) 死後は、場所の変更は出来ない。

金持ちは、アブラハムに、水で私の舌に冷やすように、ラザロに命じてくださいと懇願します。しかし、アブラハムは、「私たちとおまえたちの間には、大きな淵があります。ここからそちらへ渡ろうとしても渡れないし、そこからこちらへ越えて来ることもできないのです」と答えています(26)。

適用：死んでしまったら、場所の変更はできません。生きているうちに、自分の行くべき場所は、決まります。

(4) 金持ちは、五人の兄弟がこのような苦しみの場に来ないように、よく言い聞かせてくださいと、アブラハムに懇願します。

2 アブラハムの答え (29-31)。

(1) 彼らには、モーセと預言者がいます。彼らに聞くべきです。

「モーセと預言者」とは、旧約聖書を指します。彼らは、神のことばを聞くべきなのです。

適用：死後どこに行くかを決めるのは、生前に神のことばに聞き従うかにかかっています。

(2) もしモーセと預言者との教えに耳を傾けないなら、たといだれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない (31)。

金持ちは、「もし、だれかが死んだ者の中から彼らのところに行ってやったら、彼らは悔い改めるに違いありません」 (30) と言って、何とか救って貰おうとします。

適用：私たちも、何か不思議なことが起きたら、信じようと言います。しかし、そうではありません。神様は、奇跡によってではなく、神のことばによって信じることを求めておいでになります。神のことばを聞こうとしないで、自分の都合でパラダイスに入れてもらうことは出来ないのです。

3 永遠の神の国とゲヘナ。

聖書は、さらに、「最後の審判」を教えています。これは、「死んでしまえば、すべてが終わり」と言って、神を恐れようとしない人々に対する答えです。死んだ後に、「復活」があり、死んだ人々が復活し、神のさばきを受けるのです。

(1) 永遠の神の国 (黙示録 21-22 章)

ヨハネの黙示録 21 章から 22 章には、神を信じた者が迎える「新しい天と新しい地」について書かれています。「見よ。神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。また、神ご自身が彼らとともにおられて、彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである」 (21:3-4)

(2) ゲヘナ (マタイ 10:28 黙示録 21:8)

イエス様は、「からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい」と言われました。

「ゲヘナ」とは、「からだもたましいも滅ぼす場所」です。

黙示録では「しかし、臆病な者、不信仰の者、憎むべき者、人を殺す者、不品行の者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者どもの受ける分は、火と硫黄との燃える池の中にある。これが第二の死である」とあります。

つまり、ゲヘナは、「たましいもからだも滅ぼされる所」なのです。

結論

「死んだら、どうなる」かを、聖書から見て来ました。死んだら、まず、パラダイスか、ハデスで復活を待ちます。パラダイスは慰めの場所、ハデスは苦しみの場所です。それだけでは終わらずに、復活があり、信じる者は「永遠の神の国」継ぎ、信じない者は、たましいもからだも「ゲヘナ」で滅ぼされるのです。これが聖書の教えです。

神様は、私たちが自分の罪で滅びないように、イエス様を送ってくださいました。イエス様は、私たちの罪を負って十字架で死んでくださったのです。使徒信条には、「陰府にくだり」とあります。イエス様は、三日間ハデスの苦しみも体験してくださったのです。

ヨハネの福音書3章 16 節です。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」

聖書が私たちに求めているのは、

- 1 神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。
- 2 自分が神様に罪を犯していることを認めること。
- 3 イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださることを信じること。
- 4 イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。

招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。

あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」

祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。

私はあなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。しかし、イエス様は、私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださると言われました。感謝します。

私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。

あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださり、私を新しく生まれさせてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。

イエス・キリストの御名によってお祈りします。

アーメン。